

第 66 回 大阪市廃棄物減量等推進審議会 会議要旨

1 日 時 令和 3 年 7 月 7 日（水）14 時 30 分から 16 時 28 分まで

2 場 所 大阪市環境局 第 1・2 会議室

3 出席者

（委員）

水谷会長、嶋津副会長※、飯田委員、石村委員※、清水委員※、武智委員、原委員※、
松本委員※、横内委員※

※ウェブ会議の方法による参加（6 名）

（大阪市）

青野環境局長、堀井環境局理事兼エネルギー政策室長、嶋村総務部長※、川島事業部長、
岡本総務課長※、吉村企画課長※、三原環境施策課長※、小松家庭ごみ減量課長、山下事
業管理課長、木村まち美化担当課長※、指物屋一般廃棄物指導課長、
奥家庭ごみ減量課長代理（司会）

※ウェブ会議の方法による参加（5 名）

（大阪広域環境施設組合）

蓑田事務局長※、金子施設部長

※ウェブ会議の方法による参加（1 名）

- 4 議 題
- ・ 令和 2 年度ごみ処理量等について
 - ・ 午前収集の拡大
 - ・ ごみ減量の進捗状況と今後のごみ減量施策の検討
 - ・ プラスチックごみをめぐる国の動向

5 議事要旨

（1） 大阪市から、「令和 2 年度ごみ処理量」と「午前収集の拡大」についての報告と、検
討事項として「ごみ減量の進捗状況と今後のごみ減量施策の検討」「プラスチックご
みをめぐる国の動向」について説明があった。

（2） 委員からの意見等概要

ア 古紙と衣類のデータについては、それぞれ分けて、量の記載・分析をする必要が
あるのではないか。

イ WEB を活用した啓発活動について、どのような発信が効果的に市民の行動を変え
ていくのか、可能な限り幅広い立場の人から意見を聞くこと等により分析を行い、
活用方法を検討する必要があるのではないか。

ウ コロナ禍で実施が難しい啓発活動等について、オンラインで実施する等、様々な
ツールを様態に応じて活用するのが効果的であると考えられる。

エ 自治会や学校等、多世代が多く集まる場所で、ごみの減量や分別に関わること等、
自身が行うごみに対する行動が社会にどのような影響を及ぼすのかを考える場をつ
くすることで、行動変容につながる。

オ ごみ問題とは、社会問題でもあるという観点で世間に広めていくことで、幅広い
世代の方に、今後のごみの在り方について考えていただけないか。

カ 小学校から中学校の間、年代別に項目を分けて環境問題に取り組んでいるが、小
学校で学んだ内容を中学校で復習することで、内容が定着するのではないか。

(3) 大阪市の意見概要

コロナによる生活スタイルの変化も定着してきたように考えられるため、状況を見極めながらさらなるごみ減量施策を進めていく必要がある。

市民・事業者の方々に喜んでいただけるような、ニーズに合った施策や制度を推進していきたい。

6 会議資料

第 66 回大阪市廃棄物減量等推進審議会資料